美の里づくり審査会特別賞

岩座神棚田保存会（兵庫県多可町）

～棚田の中に集落が溶け込む農村景観づくり～

岩座神地区は標高300～400mに位置する、戸数21戸の自然豊かなむらである。

少子・高齢化が進む中、「都市との交流」を目的に、地域全戸で「岩座神棚田保存会」を結成し、平成９年から棚田オーナー制度を始め、毎年イベント等を実施し、都市住民との交流を深め、米作りを通して農業の大切さ、自然の良さを共に学習するスタイルが定着してきた。

棚田の石垣には、アドバイザーの指導によりマンネン草を植栽し、濃い緑の中に黄色の可憐な花を付ける景観への工夫のほか、平成14年度には県と景観形成等住民協定を結び、自然を守るために全戸が協力し、転作田にソバを植栽し、「岩座神ソバ」として、また婦人グループでは葉わさび漬けを、老人会ではソバガラを使いソバガラ枕を作成しそれぞれ販売するなど様々な活動を展開している。

これまでの様々な取り組みを通じて、地域の中には、景観保全への明るい希望が見えたほか、住民同志のふれあいが盛んになり、都市との交流により活気が戻った等々の成果が上がっている。もっとも大きな効果は、自分たちの地域は自分たちで守るという意識が、住民の中で育くまれたことである。

棚田と集落が織りなす全景

稲架干しによる交流活動